

# 「遠州の小京都まちづくり」基本計画 【概要版】

平成29年3月  
遠州の小京都まちづくり推進会議



目次	はじめに	1	2 森町の観光の課題	5
	1 遠州の小京都まちづくり基本構想について	1	3 森町の観光まちづくり戦略	7
	1-1 小京都とは…	1	3-1 遠州の小京都まちづくり戦略の柱	7
	1-2 「遠州の小京都」とは…	3	3-2 遠州の小京都まちづくり戦略	7
	1-3 「遠州の小京都」のまちづくりの推進に向けて	3	4 遠州の小京都まちづくり計画	12

## はじめに

全国には「小京都」と呼ばれるまちが数多くあります。そのうち、47<sup>\*</sup>のまちが全国京都会議に加盟し、京都のイメージにある美しい町並み、景観、伝統・文化、環境づくりに取り組んでいます。 ※平成 28 年度末現在

森町は、三方を小高い山々に囲まれ、中央を太田川が流れる風情豊かなまちで、大正時代にここを訪れた地理学者「志賀 重昂（しが しげたか）」は、山紫水明のこのまちを「小京都」と称賛し、以来「遠州の小京都」と呼ばれるようになりました。それ以降、社会が大きく変化したなかにおいても、当時の面影を残す古い町屋や蔵等が残り、また、舞楽や祭り等の伝統・文化が大事にされてきた森町も、平成 24 年 11 月に全国京都会議へ加盟しました。その約半年前になる平成 24 年 4 月 14 日には、森町において待望されていた新東名高速道路が開通し、森掛川 IC が開設するとともに、平成 26 年 3 月 29 日には遠州森町スマート IC が開設されるなど、森町の発信・PR や新たな交流の創出及び地域の活性化に向けての期待が一層高まっています。さらには、平成 26 年度に「遠州の小京都まちづくり基本構想」が策定され、「遠州の小京都・森町」をその由縁から改めて整理し、「遠州の小京都」のまちづくりの方向性が示されました。

このようなことを踏まえ、遠州の小京都まちづくり推進会議及び作業部会では、「遠州の小京都」を“看板”として、今後の森町の観光や産業の振興に寄与するために必要な取組等について検討し、「遠州の小京都まちづくり基本計画」として、とりまとめました。

今後は、この基本計画のもと、「遠州の小京都・森町」のまちづくりを、町民みんなで取り組んでいきましょう。

平成 29 年 3 月

遠州の小京都まちづくり推進会議

## 1 遠州の小京都まちづくり基本構想について

### 1-1 小京都とは・・・

#### (1) 小京都について

「小京都」とは、古い町並みや風情が京都に似ていることから、各地で名づけられたまちの愛称であり、室町時代以降、各地の大名が京都を模倣したまちづくり（都うつし）をしたのが、「小京都」の起源といわれています。現在、狭義では、「全国京都会議」に加盟する市町のことをいいます。

「全国京都会議」は、1985（昭和 60）年に、京都市をはじめとする 26 市町により結成され、「小京都と京都ゆかりのまち」の PR や文化の掘り起こし策などの協議をしています。1988（昭和 63）年の第 4 回総会において、全国京都会議への加盟基準が定められ、その 1 つ以上に合致していれば、総会で承認されます。

森町は、2012（平成24）年11月に加盟し、47の加盟地域（平成28年度末）の中でも、全ての加盟基準に合致する「小京都」を代表するまちの一つです。

- 全国京都会議への加盟基準
- 1 京都に似た自然と景観
  - 2 京都との歴史的なつながり
  - 3 伝統的な産業と芸能があること

## （2）「遠州の小京都の由縁」～<sup>もりまちのふ</sup>森町之賦～

日本の美しい風景を世界に知らしめた地理学者志賀重昂氏（1863～1927年 | 愛知県岡崎市出身）は、大正12年に森町を訪れ、この地の風景の美しさに心を打たれ、「森町之賦」（森町を称える詩）を詠みました。

「三方を山々に囲まれ、南部一帯に平野が広がっている。帯のように太田川が流れ、左右ににぎやかな町並みがある。三味線や太鼓のお囃子や賑やかな唄が川の流を隔てて聞こえてきたり消えたりしている。その様はどこにでもある風情ではない、まさに『小京都』である。」というもので、森町が「遠州の小京都」と呼ばれる由縁の詩として伝えられています。

依 隔 一 峯  
 稀 水 帯 巒 森  
 風 絃 夾 三 町  
 物 歌 河 繞 之  
 小 声 分 接 賦  
 京 断 巷 接 賦  
 都 続 衢 蕪

## （3）全国京都会議への加盟条件と森町の資源

「全国京都会議」の加盟基準を基に、森町の資源と京都との関係性を整理すると、次のようなものが挙げられます。

京都に似た自然や景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三方を山々に囲まれ、中央を太田川が流れている</li> <li>○町の中心には四条、五条のまちと同じ、森市場（森の町並み）がある</li> <li>○比叡山と同じように太田川水源の山を背後に位置し、京都と同じように賀茂神社など寺社が配置されている</li> <li>○桜、花しょうぶ、あじさい、ききょう、はぎ、紅葉などの花めぐり</li> </ul>	   
京都との歴史的なつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠州森町の舞楽                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●小國神社・天宮神社の舞楽は、左舞・右舞の一對をなし、都の文化を受け継いでいる</li> <li>●山名神社の舞は、京都・祇園祭の流れをくみ、京都の祇園祭で途絶えてしまった貴重な芸能を伝えている</li> </ul> </li> </ul>	  
伝統的な産業と芸能があること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○桜御前の伝説（蓮華寺と京都清閑寺）</li> <li>○菅原道真公の三人の従者の伝説</li> <li>○小國神社と青蓮院門跡</li> <li>○蓮華寺と比叡山</li> <li>○天方通季と三条西家</li> <li>○森のまつりで三島神社の男坂に掲げられる幟は、京都の有名店の帆布で作られている</li> </ul>	   

## 1-2 「遠州の小京都」とは…

### (1) 「遠州の小京都」とは（『現代版：森町之賦』）

「遠州の小京都」たる由縁は、近代の森町の情景を詠んだ「森町之賦」です。この「森町之賦」になぞらえて、町民はもちろん、森を訪れる人々などすべての人が思い浮かべる『遠州の小京都・森町』のイメージを『現代版：森町之賦』としてあらわしました。

#### 現代版：森町之賦

三方を自然豊かな山々に囲まれ、清らかな太田川はさらさらと流れ、蔵の残る町並みはどこか懐かしい。

由緒あるお宮やお寺も多く、古くから伝承されてきた舞楽やまつりは、くらしの中に息づいている。

森山焼、おいしい和菓子と森の茶、豊かな自然と農の恵みを楽しむ。ゆったり和やかな雰囲気でおもてなし。

これこそが、『遠州の小京都・森町』である。

### (2) 「遠州の小京都・森町」のまちづくりの目標

まち・人・ものに息づく文化・伝統を育み  
みんなの「絆」でもてなす まちづくり

京都にも通ずる、森のまち・人・ものに息づいている文化・伝統を、次代にしっかりと守り伝えます。

そして、「遠州の小京都」としての由縁を大切に育んでいきます。

豊かな自然環境のなか、森の茶をはじめ、治郎柿やとうもろこしなどの豊かな農の恵み、和菓子、森山焼などを活かして、森のまち・人・もの、みんなの「絆」で、おもてなしをするまちづくりを展開します。

## 1-3 「遠州の小京都」のまちづくりの推進に向けて

### (1) まちづくりの基本方針

『遠州の小京都・森町』の「まちづくりの目標」の実現に向けて、まちづくりの基本的な考え方を次のとおり整理しました。

みんなで

『遠州の小京都・森町』を

◆ 継承する ◆

◆ 発信する ◆

◆ もてなす ◆

## (2) まちづくりの推進に向けたねらい・方向

「まちづくりの基本方針」に沿って、推進に向けた「ねらい」と「取り組みの方向」を明らかにしました。

### みんなで『遠州の小京都・森町』を継承する

ねらい	「遠州の小京都・森町」への理解を深め、歴史的な価値の保全や伝統文化を守り伝えるとともに、歴史文化を活かして魅力を高める。
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「遠州の小京都」について学ぶ</li> <li>● 「遠州の小京都」を意識した啓発活動の推進（教育など）</li> <li>● 舞楽やまつり文化の伝承</li> <li>● 伝統的産業の継承</li> </ul>

### みんなで『遠州の小京都・森町』を発信する

ねらい	「遠州の小京都・森町」の知名度と集客を高めるため、その魅力を発信する。
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「遠州の小京都」のPR</li> <li>● 「遠州の小京都」にまつわる観光コースや体験プログラムの構築</li> </ul>

### みんなが『遠州の小京都・森町』でもてなす

ねらい	来訪者が何度も訪れたいくなる「遠州の小京都・森町」にしていくため、森のまち・人・ものを活かしておもてなしをする。
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「遠州の小京都」を感じられる町並みや景観の保全・整備・活用</li> <li>● 「遠州の小京都」ゆかりの地の整備</li> <li>● 「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実</li> <li>● 「遠州の小京都」を意識した商品でおもてなし</li> </ul>

## 2 森町の観光の課題

### ○ 「遠州の小京都」まちづくりの浸透

- ✓ どの団体も、来訪者に「小京都はどこ？」等と尋ねられた際に、回答に困っている。
- ✓ 「小京都」に対する認識が人によって異なっており、来訪者に対して統一的な回答・説明ができていない。



- 「遠州の小京都・森町」についての共通認識をもち、地域の資源をよく知り、誇りを持って「遠州の小京都」を意識したもてなしができるよう、「遠州の小京都まちづくり基本構想」の浸透が求められる。(特に、来訪者と接する機会が多い商店主やその従業員のほか、観光ボランティアガイド、観光施設等の従事者)
- あわせて、町民への浸透により「遠州の小京都」まちづくりへの意識の醸成が重要である。

### ○ 「遠州の小京都・森町」の観光環境の向上

- ✓ これまで観光地としてのまちづくりが進んでおらず、来訪者を迎え入れ、もてなし環境の整備が十分ではない。
  - …観光資源への案内看板、小京都ゆかりの地等の由緒書、来訪者を受け入れる駐車場や休憩所、トイレ、Wi-Fi 環境など。
  - …宿泊施設は極端に少なく、飲食店、土産物店等も十分とはいえない。
- ✓ 「小京都」と呼ばれるがゆえに、古い町並みを連想し訪れる来訪者が多く、「小京都」に期待するイメージとギャップが生じているのが実情。さらに、現状のままでは古い町屋や蔵の喪失は進行していく。



- 古い町並みの面影を残す重要な観光環境として、古い町屋や蔵の保全が望まれる。
- 「森町之賦」や、重要無形文化財の3つの舞楽をはじめとする文化的な京都とのつながりについて、「遠州の小京都」の確固たる由縁として積極的にPRし、森のまつりや各地域のおまつりといった伝統的な祭事などとともに後世に継承していくことが重要である。
- 来訪者を受け入れる環境整備として、案内・受入・もてなしのための整備が必要であり、行政だけでなく民間の力も活用し、環境条件の向上が必要である。
- 「遠州の小京都」のブランド・アイデンティティの確立が必要である。

### ○ 観光・商工（物産）振興における体制・組織の確立

- ✓ 「森町産業祭」や「町並みと蔵展」「森ほたる」等の各種イベント同士の連動や「遠州の小京都」をテーマとしたもてなしなど、総合的・戦略的な推進・コーディネートができていない。
- ✓ まちなかや他の観光施設への周遊を促す環境が整っていない。
  - …年間85万人もの来客がある小國神社、10万人余の来客があるアクティ森が活かされていない。
  - …観光案内所は遠州森駅前のみ。観光ボランティアの活用も十分でない。



- 「遠州の小京都」をテーマとした観光事業の多彩な展開や、観光と商工（物産）の連携と振興を推進するためには、森町観光協会や森町商工会等が中心と

なり、町内の観光・商工（物産）関係事業者や関連団体が力を集結して各種の事業を進め、事業主体間の相乗効果が発揮できるような体制づくりと組織の確立を進めることが必要である。

○ 多様な地域資源を活かす商品（観光・物産）開発の推進

✓ 豊かな自然環境や歴史文化資源など、多彩な地域資源を持っているが十分に活かされていない。PR 不足。



■ 豊かな自然環境や歴史文化資源など、多彩な地域資源について磨き上げることが重要であり、埋もれている資源の発掘もあわせて行うことが必要である。

■ お茶や治郎柿、とうもろこし等の農産物のほか、お菓子、森山焼等を物産資源として組み合わせるなど、多彩な地域資源活用の工夫による着地型<sup>\*</sup>の旅行商品の開発や、付加価値の高い商品（物産）の開発により、観光・商工（物産）の振興を図ることが必要である。

※着地型…旅行者を受け入れる側の地域（着地）側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態

○ 情報発信力の強化による知名度・ブランド力の強化

✓ 新東名高速道路森掛川 IC、遠州森町スマート IC の開設等により、各種メディアで紹介される機会が増えたものの、静岡県内においても依然として知名度が低い。

✓ 農産物、お菓子、森山焼といった多彩で豊富な物産資源が存在するが、森町や遠州の小京都のブランドとして定着しているものは少ない。



■ 自らの魅力を効果的にアピールすることや情報発信力を強化することで、対外的な知名度や地域のブランド力を強化することが必要である。

■ 旅行商品や物産資源の付加価値を高め、集客力の増大や経済効果の増進につながることを期待される。

○ 「遠州の小京都」を活かした観光・商工（物産）振興の活動を展開する拠点機能の創出

✓ 「小京都」を連想するような積極的な町並みの整備はされておらず、「小京都」を期待して訪れる観光客がそのギャップに失望しているという意見がある。

✓ まちなかには観光案内のための施設がないため、十分なおもてなしや「遠州の小京都」の案内ができていない。

✓ まちなかの町屋や蔵を活用した「小京都」を見て感じられる、観光・物産振興の活動の中心となる拠点の整備の必要性について、各種団体から意見が挙がっている。



■ 来訪者に対する案内機能の拠点となるとともに、観光商品や物産の紹介、販売の機能も有し、観光・物産情報を提供しつつ、観光のニーズを収集するアンテナ機能も備えるなど、観光・物産の振興活動の拠点であり、観光案内拠点であると同時に、「小京都」を感じられる空間として、町屋や蔵を活用した拠点機能の創出が求められる。

## 3 森町の観光まちづくり戦略

### 3-1 遠州の小京都まちづくり戦略の柱

このまちづくり戦略は、「森町の観光まちづくりの課題」に対応し、「遠州の小京都・森町」を広くPRし、町の活性化（観光振興・産業振興）を図るべく、環境、商品、ブランド力、拠点、組織・体制、人（材）をつくることを柱に据え、各方策を位置づけます。

#### 森町の観光まちづくりの課題

- 「遠州の小京都」まちづくりの浸透
- 「遠州の小京都」にふさわしい観光環境の向上
- 観光・商工（物産）振興における体制・組織の確立
- 多様な地域資源を活かす商品（観光・物産）開発の推進
- 情報発信力の強化による知名度・ブランド力の強化
- 「遠州の小京都」を活かした観光・商工（物産）振興の活動を展開する拠点機能の創出

#### 遠州の小京都まちづくり戦略の柱

- (1) 環境づくり
- (2) 商品づくり
- (3) ブランド力づくり
- (4) 拠点づくり
- (5) 組織・体制づくり
- (6) 人づくり

### 3-2 遠州の小京都まちづくり戦略

#### (1) 環境づくり

- 本町の玄関口となる新東名高速道路森掛川ICや遠州森町スマートIC、天竜浜名湖鉄道遠州森駅などから、観光スポットを案内する案内標識等のサイン整備を進めていく。
- 「遠州の小京都」に関連する観光スポットについては、由緒書を整備し、「遠州の小京都」巡りが可能となるようなネットワークを形成する。また、各地区における神社仏閣や祭事、優れた景観スポットなど、地域が誇れるものを地域資源として磨き上げ、魅力を育て発信していく。
- 「遠州の小京都」から来訪者が連想する古い町並みについては、年々喪失しているため、所有者や地域住民、町民全体が改めて価値を認識するための調査を実施し、古い町屋や蔵の価値の再認識と埋もれた地域資源の発掘を行う。これにより、町民の意識高揚による町屋や蔵の保全活動の推進を図るとともに、付加価値を高め集客力の向上につなげていく。
- 古い町並みを求めて訪れる観光客に対し、観光パンフレットに掲げられている「ここで京を感じるまち」をブランド・アイデンティティとして、「遠州の小京都」の由縁や京都との文化的つながりなど、「遠州の小京都」を説明する看板等を主要観光施設やまちなかに



設置し、「遠州の小京都」流のおもてなしを実践していく。

- 来訪者を受け入れる施設環境として、観光スポット等への駐車場、休憩所・トイレ等の整備や ICT 社会に対応する Wi-Fi 環境の整備等については、既存施設や周辺の公共施設等の活用、民間事業者（商店等）との連携により、充実を図っていく。
- 各個店において、観光案内所としての機能を担うことができるよう、観光パンフレットの設置等により、観光案内の充実を図っていく。

## 【戦略のポイント】

- 玄関口となる新東名高速道路のインターチェンジや駅などから、観光スポットまでの案内サイン整備
- 「遠州の小京都」ゆかりの地における由緒書等の案内看板の整備
- 古い町屋や蔵の価値を再認識するための調査及び保全活動の推進
- 主要観光施設やまちなかなどへの「遠州の小京都」の説明看板の整備
- 地域の観光資源の掘り起しと PR
- 既存公共施設や民間事業者との連携による観光スポット等への駐車場、休憩所・トイレ・Wi-Fi 環境等の整備・充実
- 各個店における観光案内機能の充実

## (2) 商品づくり

○森林や太田川、三倉川などの豊かな自然資源、小國神社、大洞院に代表される神社仏閣のほか、秋葉街道の宿場町の面影を残す常夜灯や町屋・蔵等の歴史資源に加え、アクティ森、森山焼の窯元等の様々な地域資源の観光的な活用を進めるために、魅力の発信とあわせて、これらを最大限に活かす着地型の観光商品として開発していく。

○多数の地域資源を巡る魅力ある観光コースの提供に加え、お茶や治郎柿、とうもろこし等の旬の農産物、梅衣や栗蒸しようかん等の和菓子、森山焼といった物産資源を組み合わせることにより、例えば、「森山焼の窯元見学と陶芸体験」、「新茶を森山焼でいただくお茶会」、「旬の農の恵みの収穫体験・食す」など、体験型・交流型の観光商品の開発を進めていく。特に、四季折々で楽しめる花めぐりや祭事、定期開催のイベントとの連携を図っていくことで、付加価値を高めていく。



森の茶・和菓子・森山焼

○事業者の相互連携を強化し、お茶とお菓子と陶器など、関係性の深い物産資源の組み合わせることにより、来訪者にとってメリットのあるセットサービス商品の開発、提供を進めていく。

○京都とのつながりを活かし、京都の老舗や有名店等とのコラボレーション商品の開発により、京都との関係性を PR し、「遠州の小京都」の付加価値を高めていく。

○商品開発・改良等にあたっては、産学官のネットワークを有効に活用し、高い付加価値の創出・向上を図っていく。

## 【戦略のポイント】

- 自然資源、歴史資源、文化資源を活かした体験型・交流型の着地型観光商品の開発
- 四季のイベント、祭事等との連携による高付加価値化
- 農商工、産学官連携による観光商品、地域製品の創出
- 京都とのつながりを PR する京都の老舗・有名店等とのコラボレーション商品の開発

### (3) ブランドカづくり

○平成 24 年 11 月に加盟した全国京都会議を通じて、全国に「遠州の小京都」として発信するとともに、新東名高速道路の森掛川 IC と遠州森町 PA 及びスマート IC の交通環境を活かし、沿線の都市などに「遠州の小京都・森町」の知名度を上げていくため、新東名高速道路の休憩施設を活用して本町の魅力を発信していく。

○インターネットを通じたアクセスへの対応力強化のため、観光協会による「遠州の小京都」と観光情報を発信するサイトを作成するほか、商工会等各種団体のホームページと相互リンクするなど、情報基盤の強化を図っていく。また、各種団体の SNS を活用した、鮮度の高い情報提供を行っていく。

○積極的な投げ込み(プレスリリース)により、様々な情報媒体を通じて、本町の魅力を発信し、「遠州の小京都・森町」の知名度を上げていく。

○各種観光物産展等の場を活用し、森町を連想させる物産となるよう、物産資源を発信していく。また、セットサービス等の企画商品については、PR 効果の高いパッケージの制作など、「遠州の小京都・森町」を効果的に発信する工夫により、ブランドカづくりを行っていく。

○物産と「遠州の小京都」をつなぎ、イメージづけるため、「遠州の小京都・森町」を紹介するチラシやポストカードを企画・制作し、物産等の地方発送やお土産品に同梱することで、観光情報を発信するとともに、物産及び「遠州の小京都」のブランドカづくりを行っていく。

○各種観光物産展等への参加にあたり、「遠州の小京都・森町」を PR するポスター、のぼり旗等の制作により、PR 活動の効果を上げていく。制作にあたっては、本町出身の書家・杭迫柏樹先生の協力を得て「遠州の小京都・森町」のロゴタイプを制作するなど、統一的なデザインを用いることで、イメージアップ・ブランド力の強化を図っていく。



観光パンフレット  
「遠州の小京都森町」

## 【戦略のポイント】

- 全国京都会議を活用した「遠州の小京都・森町」の積極的情報発信
- 新東名高速道路の SA・PA を活用した沿線市町への積極的な観光情報の発信
- インターネットを通じた観光・物産情報の提供体制の強化
- マスコミ等を通じた本町の紹介情報の積極的情報発信
- 観光物産展等による物産資源の PR と「遠州の小京都」ブランドの強化
- ブランド PR のためのロゴタイプやポスター、のぼり旗等の制作・活用

## (4) 拠点づくり

- 観光振興・物産振興の拠点となる機能を創出し、来訪者に対する案内機能、観光商品・物産の紹介・販売の機能も併せ持つ拠点として、整備を検討していく。また、各種情報を発信しつつ、観光の現場として観光ニーズを収集するアンテナ機能も形成していく。整備にあたっては、現在、まちなかにない機能であることを踏まえ、空き家となっている町屋や蔵の活用により、「遠州の小京都」を見て・触れて・感じられる空間を演出するとともに、お茶やお菓子等のサービスによるもてなしを行うなど、「遠州の小京都」まちづくりの拠点として発信していく。
- 拠点については、観光ボランティアガイドの活動拠点とするとともに、地域のまちづくり活動の場や、観光関連事業者の交流の場に活用するなど、常時利用され、まちなかに活気を生み出す施設となるよう、活用方法についても検討していく。
- 多くの来訪者を集める小國神社や各種イベント等において、臨時の観光案内所を設置・運営し、案内機能の拡充を図っていく。

### [戦略のポイント]

- 町屋や蔵の活用による「遠州の小京都」を演出した、まちなかにおける観光案内、観光商品・物産の販売の拠点の創出
- 拠点における多目的活用方法の検討
- 小國神社や各種イベントにおける臨時観光案内所の設置・運営

## (5) 組織・体制づくり

- 「遠州の小京都まちづくり」の推進においては、「観光振興」と「物産振興」が両輪となる。それぞれの主体となる「森町観光協会」と「森町商工会」が連携を強化し推進していく。
- 物産振興については、本町の物産資源であるお茶や治郎柿、とうもろこし等の農産物、梅衣や栗蒸しようかんなどのお菓子、工芸品の森山焼等の各事業者が、組織的連携が図れるよう、それぞれの事業者代表や関係者で組織された「遠州の小京都まちづくり推進会議（作業部会）」を定期的な連絡・調整の場として活用していく。
- 「町並みと蔵展」や「森ほたる」、「ぷぷふの日」などの各地で開催されているイベントを運営する組織や「明神通り振興会」など、町民等を主体としたまちづくり活動組織を把握するとともに、組織同士の連携が図れる場や機会を創出する。また、これらの組織と連携・連動により、「遠州の小京都」が感じられるもてなしを実施していく。



遠州の小京都まちづくり推進会議  
(平成28年度作業部会)

### [戦略のポイント]

- 森町観光協会と森町商工会の連携強化

- 遠州の小京都まちづくり推進会議（作業部会）の、遠州の小京都まちづくり推進の連絡・調整の場としての活用
- まちづくり活動組織の連携の場・機会の創出
- まちづくり活動組織の連動による、「遠州の小京都」流もてなしの実施

## （6）人づくり

- 来訪者と接する機会が多い商店主やその従業員のほか、観光ボランティアガイド、観光施設等の従事者に対し、「遠州の小京都まちづくり」の浸透ともてなしの心の醸成を図るための啓発・教育活動を展開する。具体的には、「遠州の小京都」の由縁をはじめ、地域資源、物産などの情報のほか、もてなしの心得などをまとめた「(仮称) 遠州の小京都おもてなしガイドライン」を作成・周知し、もてなし力を強化する。
- 本町の観光案内の機能を担ってきた観光ボランティアガイドについて、「(仮称) 遠州の小京都おもてなしガイドライン」によるもてなし力の強化に努めるとともに、活動の維持、拡大に向けた新たな人材育成を進めていく。
- 町民がまず「遠州の小京都」をよく知り、来訪者を案内できる力を育てていけるよう、「遠州の小京都まちづくり基本構想」や「(仮称) 遠州の小京都おもてなしガイドライン」の活用により、もてなしの意識醸成ともてなし力の強化を図っていく。
- 全町民が森町の宣伝マンとして、町民の積極的なイベント参加や、地元の物産品の消費を促進し、口コミを含め「遠州の小京都」の魅力についての発信力・宣伝力を高めていく。

## 【戦略のポイント】

- 「(仮称) 遠州の小京都おもてなしガイドライン」を作成・周知による、商店主、観光施設従事者等の「遠州の小京都」流もてなし力の強化
- 観光ボランティアガイドの人材育成
- 町民への「遠州の小京都」まちづくりの浸透ともてなし意識の醸成
- 町民への地元物産品の消費奨励、啓発

## 4 遠州の小京都まちづくり計画

このまちづくり計画は、「遠州の小京都まちづくりの戦略」の柱に沿って、「遠州の小京都まちづくり基本構想」で示された「まちづくりの提案」を基に、優先度の評価や「各種団体ヒアリング」の結果を踏まえ、短期的に推進すべき取組を「遠州の小京都まちづくり計画」として位置づけます。

### (1) 環境づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構想の位置づけ
		優先度 高	緊急性 高	ニーズ 高	
玄関口となる新東名高速道路のインターチェンジや駅などから、観光スポットまでの案内サイン整備	町・観光協会	【実施中】			もてなす
「遠州の小京都」ゆかりの地における由緒書等の案内看板の整備	町	【実施中】			もてなす
古い町屋や蔵の価値を再認識するための調査及び保全活動の推進	[調査]: 町 [保全]: 個人・地域(町)	◎		◎	継承する
既存公共施設や民間事業者との連携による観光スポット等への駐車場、休憩所・トイレ・Wi-Fi環境等の整備・充実	町・観光協会・事業者等	◎			もてなす
主要観光施設やまちなかなどへの「遠州の小京都」の説明看板の整備	町・観光協会	◎			もてなす
各個店における観光案内機能の充実	事業者・商工会			◎	もてなす

## (2) 商品づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構想の位置づけ
		優先度 高	緊急性 高	ニーズ 高	
「遠州の小京都・森町」を感じる各種観光コースの設定（四季の花めぐり、由緒ある神社仏閣巡り、町並みを観て歩くなどのコース）	推進会議（部会）・観光協会			<b>【実施中】</b>	発信する
「遠州の小京都・森町」を体験する観光プログラムの構築（森山焼の窯元見学・体験、森山焼でいただくお茶と和菓子（お茶会）、豊かな農の恵みを食すなどの体験プログラム）	推進会議（部会）・観光協会		○		発信する
お茶とお菓子和陶器など、関係性の深い物産資源の組み合わせによるセットサービス商品の開発	事業者・商工会・各種組合			<b>【実施中】</b>	発信する
京都とのつながりを活かした京都の老舗や有名店等とのコラボレーション商品の開発	推進会議（部会）・商工会・産学官連携	◎			発信する

## (3) ブランドカづくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構想の位置づけ
		優先度 高	緊急性 高	ニーズ 高	
全国京都会議を活用した「遠州の小京都・森町」の積極的情報発信	町・観光協会			<b>【実施中】</b>	発信する
新東名高速道路のSA・PAを活用した沿線市町への積極的な観光情報の発信	町・観光協会			<b>【実施中】</b>	発信する
「遠州の小京都・森町」の観光情報・物産情報を紹介するウェブサイトの開設、SNSの活用	町・観光協会・商工会			<b>【実施中】</b>	発信する
TV・雑誌・近隣市の情報誌等での「遠州の小京都・森町」特集など、マスメディアを活用した積極的な情報発信	町・観光協会・商工会	◎			発信する
観光物産展等による物産資源のPR	町・観光協会・商工会・各種組合			<b>【実施中】</b>	発信する
パッケージの工夫や商品へ梱包する「遠州の小京都」PRチラシの作成による「遠州の小京都」ブランドイメージ力の強化	町・観光協会・商工会・各種組合・産学官連携			◎	発信する
ブランドPRのためのロゴタイプやポスター、のぼり旗等の制作・活用	町・観光協会・商工会	◎		◎	発信する

(4) 拠点づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構想の位置づけ
		優先度高	緊急性高	ニーズ高	
町屋や蔵の活用による「遠州の小京都」を演出した、まちなかにおける観光案内、観光商品・物産の販売の拠点の創出と多目的活用方法の検討	町・観光協会・ 商工会			◎	もてなす 継承する
小國神社や各種イベントにおける臨時観光案内所の設置・運営	観光協会・ 観光ボランティアガイド	【実施中】			発信する もてなす

(5) 組織・体制づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構想の位置づけ
		優先度高	緊急性高	ニーズ高	
森町観光協会と森町商工会の連携強化	町・観光協会・ 商工会			◎	もてなす
遠州の小京都まちづくり推進会議（作業部会）の、遠州の小京都まちづくり推進の連絡・調整の場としての活用	町・観光協会・ 商工会・各種団体			◎	もてなす
まちづくり活動組織の連携の場・機会の創出	町・観光協会・ 各種団体			◎	もてなす
まちづくり活動組織の連動による、「遠州の小京都」的もてなしの実施	町・観光協会			◎	もてなす

(6) 人づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構想の位置づけ
		優先度高	緊急性高	ニーズ高	
「(仮称) 遠州の小京都おもてなしガイドライン」を作成・周知による、商店主、観光施設従事者等の「遠州の小京都」流もてなし力の強化	町・観光協会	◎		◎	継承する もてなす
観光ボランティアガイドの人材育成	観光協会・ 観光ボランティアガイド		○	○	継承する もてなす
町民への「遠州の小京都」まちづくりの浸透ともてなし意識の醸成	町・観光協会	◎			継承する もてなす
町民への地元物産品の消費奨励、啓発	商工会			◎	継承する もてなす

「遠州の小京都まちづくり」基本計画  
(概要版)

遠州の小京都まちづくり推進会議

事務局/森町役場産業課

〒437-0293 静岡県周智郡森町森2101-1

TEL : 0538-85-6319 FAX : 0538-85-5259

E-mail : kanko@town.shizuoka-mori.lg.jp

URL : <http://www.town.morimachi.shizuoka.jp/>